

収録・解説 酒井董美

語り手 片桐利喜さん

(明治30年年生まれ)

昭和58年7月17日収録

あらすじ

昔娘が三人いました。

一番上の娘は「法印さん(僧侶のこと)の嫁にな

る」と言っていました。お

父さんやお母さんは「法

印さんがもらうてごしな

はらにゃ行かれん」と言

っていたら、法印さんが

娘さんを嫁にもらいに来

られたので、法印さんの

嫁になって行きました。

二番目の娘は「神まき

んの嫁に行きたい」と言

っていたら、神まきさんが

もらいに来られて、嫁に

なうて行きました。

一番下の娘さんは「百

姓家に好いちよっけん、

百姓家へ嫁に行く」と言

## 三人の娘の婿

(東伯郡三朝町大谷)



イラスト・福本隆男

## 人々は農夫に自分を投影

ちが呼ばれに来ました。祭りが来て、婿さんた

なだ、なんなと芸しっ。三番目の婿さんは尻から

上二人の婿さんである。その婿さんは「かかさん、法印さんや神まきさんは、手拭いとトーシと出いて

すまねをしながら、大きとなつてゐる。「蛇婿入

おん殿さんに

さしあげる

二番ドーシのその下は

われわれなんどの

飯糰だ

三番ドーシのその下は

神主、法印にやる米だ

アーソーリヤソーリヤ

ソーリヤーソーリヤ

末娘の婿は普通の農夫で

ある。社会的に对照的な

両極にある立場を提示し

た後、話は進み、祭り

で実家に招待された三人

の婿の描写がおもしろい。

歌にこめられた農夫の

心意気は、同時に昔話を

愛した多くの庶民のそれ

でもある。人々は、この

ようにして農夫に自分の

姿を投影させて、その勝

利に喝采を送っていたの

### 解説

昔話ではよく三人娘と

(元鳥取短期大学教授)

(水曜日に掲載)